

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

**平成25年度～平成29年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 行吉学園 2 大学名 神戸女子大学
- 3 研究組織名 神戸女子大学古典芸能研究センター
- 4 プロジェクト所在地 神戸市中央区中山手通2-23-1 神戸女子大学教育センター2階
- 5 研究プロジェクト名 日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

| 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|--------|-------------------------|-------------|
| 川森 博司 | 古典芸能研究センター 神戸女子大学文学部 | センター長 教授 |

8 プロジェクト参加研究者数 27 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

| 研究者名 | 所属・職 | プロジェクトでの研究課題 | プロジェクトでの役割 |
|-------------|----------------------------------|----------------------|---------------------|
| 【学内】 | | | |
| 川森 博司 | 古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授 | 民俗芸能の歴史的変遷の研究 | 研究代表者 民俗芸能研究(統括) |
| 大山 範子 | 古典芸能研究センター非常勤研究員 神戸女子大学・非常勤講師 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 中世芸能研究 |
| 長田 あかね | 古典芸能研究センター非常勤研究員 相愛高等学校・非常勤講師 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 中世芸能研究 |
| 井上 勝志 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明 | 近世芸能研究 |
| 川端 咲子 | 古典芸能研究センター非常勤研究員 神戸女子大学・非常勤講師 | 都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明 | 近世芸能研究 |
| 梶木 良夫 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・准教授 | 日本中世史の視点からの民俗芸能の研究 | 民俗芸能研究 |
| 河田 千代乃 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 神事祭礼の研究 | 民俗芸能研究 |
| 武藤 美也子 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子短期大学・特任教授 | 民俗学的視点からの神事・祭礼の研究 | 沖縄祭祀研究 |
| 知名 定寛 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 琉球宗教史研究 | 沖縄祭祀研究 |
| 海老 久人 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 海外における古典芸能研究 | 国際的研究者ネットワークの形成 |
| アン・ケーリ | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 海外における古典芸能研究 | 国際的研究者ネットワークの形成 |

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

| 研究者名 | 所属・職 | プロジェクトでの研究課題 | プロジェクトでの役割 |
|-------------|---|----------------------|-----------------|
| 【学外】 | | | |
| 大谷 節子 | 古典芸能研究センター客員研究員 名城大学文学部・教授 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 中世芸能研究(統括) |
| 天野 文雄 | 古典芸能研究センター客員研究員 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター・所長 大阪大学・名誉教授 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 能楽史研究 |
| 小林 健二 | 古典芸能研究センター客員研究員 国文学研究資料館・教授 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 能・狂言研究 |
| 関屋 俊彦 | 古典芸能研究センター客員研究員 関西大学文学部・特任教授 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 狂言研究 |
| 宮本 圭造 | 古典芸能研究センター客員研究員 法政大学能楽研究所・教授 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 能楽史研究 |
| 阿部 泰郎 | 古典芸能研究センター客員研究員 名古屋大学大学院文学研究科・教授 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 中世芸能・中世文化史研究 |
| 川崎 剛志 | 古典芸能研究センター客員研究員 就実大学人文学部・教授 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 中世芸能・中世文学研究 |
| 恵阪 悟 | 帝塚山大学文学部・専任講師 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 謡・能番組整理 |
| 阪口 弘之 | 古典芸能研究センター特別客員研究員 神戸女子大学・名誉教授 | 都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明 | 近世芸能研究(統括) |
| 河合 眞澄 | 古典芸能研究センター客員研究員 大阪府立大学人間社会学部・教授 | 都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明 | 近世芸能研究 |
| 林 久美子 | 古典芸能研究センター客員研究員 京都橋大学文学部・教授 | 都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明 | 近世芸能研究 |
| 西岡 陽子 | 古典芸能研究センター客員研究員 大阪芸術大学芸術学部・教授 | 民俗芸能の歴史の変遷の研究 | 民俗芸能研究 |
| 高阪 薫 | 古典芸能研究センター客員研究員 元甲南大学・学長 | 民俗学的視点からの神事・祭礼の研究 | 沖縄祭祀研究 |
| 小栗栖 健治 | 古典芸能研究センター客員研究員 元兵庫県立歴史博物館・館長補佐 | 民俗芸能の歴史の変遷の研究 | 民俗芸能研究 |
| 久万田 晋 | 古典芸能研究センター客員研究員 沖縄県立芸術大学附属研究所・教授 | 民俗学的視点からの神事・祭礼の研究 | 沖縄祭祀研究 |
| 米田 雄介 | 古典芸能研究センター客員研究員 神戸女子大学・名誉教授 | 日中古代楽器の研究 | 国際的研究者ネットワークの形成 |

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

| | | | | |
|---|------------------------------------|--------------------------------------|--------|--------------|
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 大谷 節子 | 研究代表者 |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授 | 古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授 | 川森 博司 | 研究代表者 |
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | | | | |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 古典芸能研究センター非常勤研究員 京都造形芸術大学・非常勤講師 | 古典芸能研究センター非常勤 研究員 相愛高等学校・非常勤講師 | 長田 あかね | 中世芸能研究 |
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | | | | |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 名古屋大学大学院文学研究科・教授 | 古典芸能研究センター客員研究員 名古屋大学大学院文学研究科・教授 | 阿部 泰郎 | 中世芸能・中世文化史研究 |

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

| | | | | |
|---|-------------------------------------|---------------------------------------|--------|-----------------|
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | | | | |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 就実大学人文科学部表現文化学科・教授 | 古典芸能研究センター客員研究員 就実大学人文科学部表現文化学科・教授 | 川崎 剛志 | 中世芸能・中世文学研究 |
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | | | | |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 園田学園女子大学近松研究所所長 園田学園女子大学・教授 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 井上 勝志 | 近世芸能研究 |
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | | | | |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 兵庫県立歴史博物館・館長補佐 | 古典芸能研究センター客員研究員 元兵庫県立歴史博物館・館長補佐 | 小栗栖 健治 | 民俗芸能研究 |
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | | | | |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 古典芸能研究センター客員研究員 沖縄県立芸術大学附属研究所・教授 | 左同 | 久万田 晋 | 沖縄祭祀研究 |
| 旧 | プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 海外における古典芸能研究 | 神戸女子大学文学部・助教 | 中村 平 | 国際的研究者ネットワークの形成 |
| ↓ | | | | |
| 新 | 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
| | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 左同 | 海老 久人 | 国際的研究者ネットワークの形成 |

以上

(変更の時期:平成27年4月1日)

※別紙、平成27年4月30日付提出分 研究代表者変更関係届出書一式を添付する

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」研究者変更・追加・辞退届

1 学校法人名 行吉学園 2 大学名 神戸女子大学3 選定年度 平成25年度 4 事業番号 S13110485 研究組織名 神戸女子大学古典芸能研究センター6 研究プロジェクト外名 日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成

7 研究代表者

| 研究代表者名 | 所属・職名 |
|--------|--------------|
| 大谷 節子 | 神戸女子大学文学部・教授 |

8 プロジェクト参加研究者数 21名

9 研究者の変更状況

| | プロジェクトにおける研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトにおける役割 |
|---|----------------|---------------------------------|-------|--------------|
| 旧 | 古典芸能の始原と変遷の解明 | 古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授 | 大谷 節子 | 研究代表者 |



| | 変更(就任)前の所属・職名 | 変更後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトにおける役割 |
|---|-----------------------------|-----------------------------|-------|--------------|
| 新 | 古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授 | 古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授 | 川森 博司 | 研究代表者 |

10 変更日 平成 27 年 4 月 1 日

11 変更理由

研究代表者 大谷節子の自己都合(他大学への転出)による平成27年3月31日付退職に伴う研究代表者の変更

12 変更に伴う影響及びその対応策

大谷節子教授は研究代表者であると共に本研究プロジェクトが敷く研究体制、即ち中世芸能(能・狂言)、近世芸能(浄瑠璃・歌舞伎)、民俗芸能の三本柱のうち、中世芸能研究統括の立場も担っていた。五ヶ年計画の大筋は、各分野の研究内容を考慮して、初年度および二年目(25・26年度)は中世芸能、三年目(27年度)は近世芸能、四年目(28年度)は民俗芸能を重点に据え、それぞれの成果を踏まえた総括を最終年度(29年度)に予定している。中世芸能分野については、平成26年11月に国際研究集会「見つめる能面・能面を見つめる」の開催を終え、順調に研究が進展しており、大谷教授は引き続き、学外メンバーとして当該(研究)課題を担っていくことになるが、中世芸能分野の研究統括者の転出は、組織構成上、大きな問題となる。その対応として、中世芸能研究において大谷教授と同等以上の学識経験・研究業績を有する人物の後任人事を平成27年度中におこなうとともに、研究代表者には、計画初年度から民俗芸能研究統括の任を担ってきた川森博司古典芸能研究センター長を当てる体制整備をおこなうことにしたい。なお、中世芸能研究分野を中心に学外参加研究者の補充も同時に図り、研究体制をより充実させる所存である。

本学は、古典文学の舞台となった多くの史跡をのこす須磨・明石の地にあり、文学部開設時(1969年)より国文学科・史学科を中心に第一線の古典文学・歴史・民俗学の研究者を有し、教育・研究を推進し、関連資料の収集も行った。中でも、特に古典芸能研究において他に類のない優れた研究条件が整ったため、平成13年度に古典芸能研究センターを開設し、本学における人文科学研究の先端に位置付けて、調査・研究を行いつつ、施設を学外へも開放し、社会への学的貢献を行ってきた。本プロジェクトでは、本センターのこれまでの蓄積を横断的総合的に再組織化することで、古典芸能の横断的総合的研究の拠点としての更なる発展を目指している。今回の大谷教授の転出は突発的な事態であるが、古典芸能研究センターを本学の研究の先端に位置づける姿勢にはいささかのゆるぎもない。速やかに学内外の補充人事を行うことにより(詳細別紙)、研究代表者の変更による影響を最小限にとどめ、研究体制の更なる充実を図っていく。

作成担当者連絡先: 山崎 敦子 神戸女子大学古典芸能研究センター事務室・課長補佐 電話(078)231-1061

<留意事項>

- 本変更等届は、事業選定時の構想調書に記載された参加研究者の変更(追加・辞退を含む)について作成し、提出してください。また、変更後の研究者の研究プロジェクトに関連する過去5年間の主な研究業績を添付してください(様式自由)。
- 参加研究者の変更等はやむを得ない場合に限られます。
- 本変更等届のタイトルにおいて、変更・追加・辞退のいずれかに○を付してください。
- 「6 研究プロジェクト外名」欄は、選定を受けた事業名を記載してください。1事業において複数の研究テーマを実施している場合は、該当するテーマ名まで記載してください。

・変更に伴う影響及びその対応策（別紙）

大谷節子は中世芸能分野の研究統括を継続するが、平成27年度より学外メンバーとなるため、平成28年度からは中世芸能分野を専門とする新たな専任教員を任用し、協力して研究統括に当たれる体制を準備する。研究代表者については、平成27年度より、現在、民俗芸能分野の研究統括を担当している川森博司が担当する。

中世芸能分野については、平成27年度より新たなメンバーとして、長田あかね（神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員）、阿部泰郎（名古屋大学大学院文学研究科教授）、川崎剛志（就実大学人文科学部教授）を加え、大谷節子の転出に伴う不足面を補いつつ、さらなる充実を図る。新メンバーは、中世の宗教文献・図像資料について深い造詣を持ち、伊藤正義文庫・志水文庫の文献および図像資料の整理・分析・活用において、より深めた研究の進展が期待される。

近世芸能分野については、平成27年度より神戸女子大学文学部教授として着任する井上勝志を新たなメンバーに加え、さらなる充実を図る。井上氏は近松門左衛門研究の最前線にいる研究者であり、専任教員として近世芸能分野をリードしていく役割を期待している。

民俗芸能分野ならびに沖縄祭祀研究分野については、小栗栖健治（元 兵庫県立博物館館長補佐）と久万田晋（沖縄県立芸術大学附属研究所教授）を新たなメンバーに加え、さらなる充実を図る。小栗栖氏は兵庫県の民俗芸能の現場に最も詳しい人物であるとともに、民俗芸能および祭礼の写真記録の整理・活用についての作業を進行しており、本学の喜多文庫民俗芸能資料を補充する形での研究の進展が期待される。久万田氏は長年の現地調査に基づいて沖縄の民俗芸能研究を体系的に進めている優れた研究者であり、当センターの沖縄祭祀資料データベースの充実に向けて、連携して研究を進めていく予定である。

[その他、恵阪悟は転出により学外メンバーとなる。また、中村平は転出により海老久人（神戸女子大学文学部教授）と交替する]

以上の変更を図示すると別紙「新研究体制」のようになる。上記のように、研究代表者大谷節子の転出に伴う影響を十分に補い、それぞれの研究分野の質をさらに高めていくかたちで、学内外のメンバーの補充をおこなうことになるので、研究プロジェクトの残り3年の事業の推進に支障はなく、さらに充実させたレベルで研究基盤形成を推進していくことができる体制を準備している。

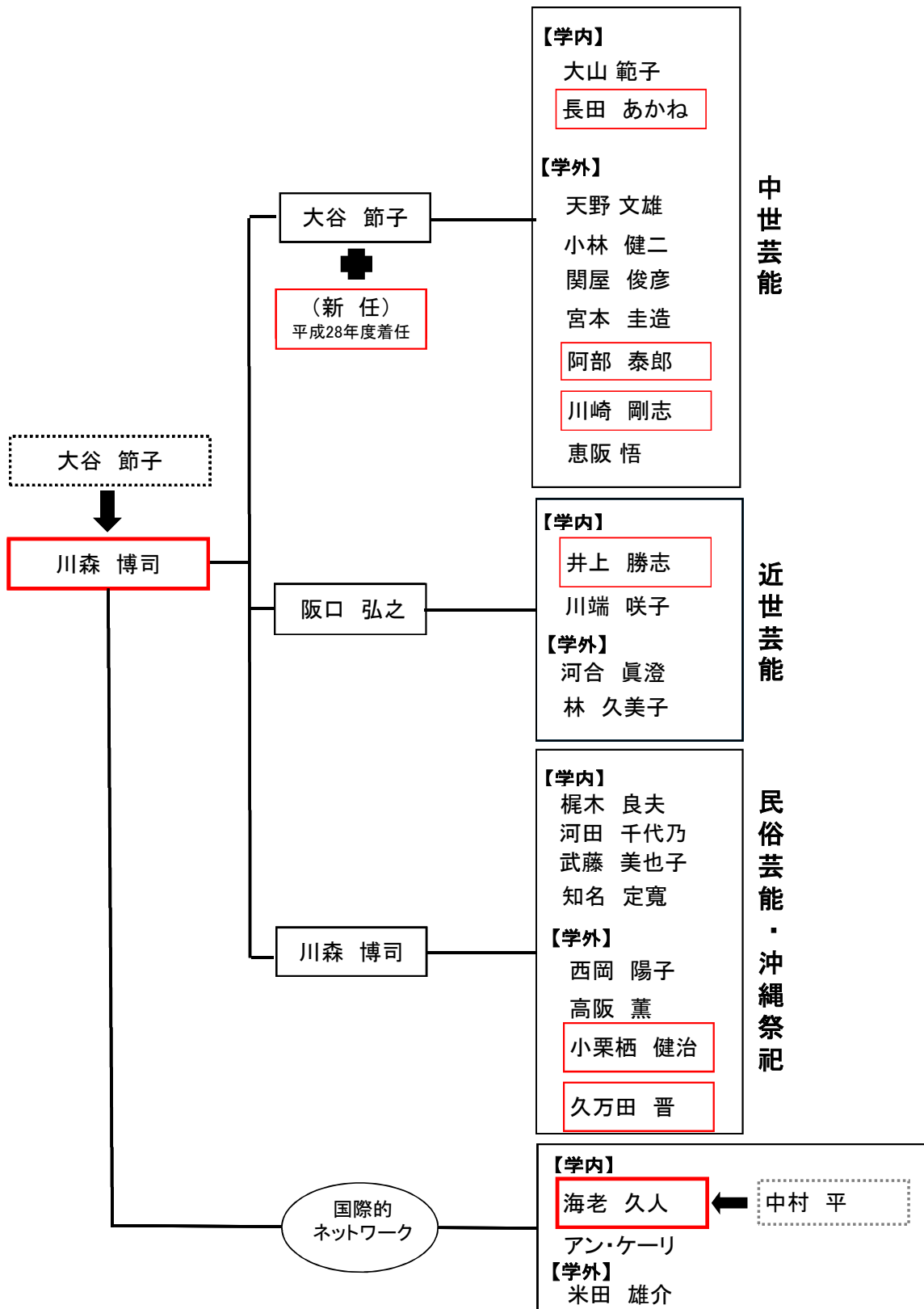
新研究体制

…変更
 …追加
 …辞退

研究代表者

分野別統括者

参加研究者



| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

このプロジェクトは、本学古典芸能研究センターが所蔵する能・狂言、浄瑠璃、歌舞伎、民俗芸能、沖縄祭祀に関する貴重な資料を活用して、古典芸能の始原と変遷を解明するための研究拠点を形成することを目的としている。当センターは、所蔵する資料の貴重性と研究スタッフの潜在力において、この5年間の支援事業のプロジェクトを受けて計画的・重点的に研究基盤を整備していくことの意義は大きいと考えている。

具体的には、資料の整理と公開を進めるとともに、平成26年度以降、年1度の公開研究会を実施し、その成果を単行本および論文として刊行する。それによって、研究成果を関連研究者の間で共有できるようにし、研究拠点としての位置づけを高めていくことを目指す。また、公開研究会の時期に合わせて、古典芸能研究センターの展示室において関連資料の展示をおこなうことにより、資料の公開を進めていく。

国際化については、26年度と29年度の公開研究会を国際的なものとするとともに、研究者レベルでの国際的な研究交流のネットワーク作りを進めていく。

(2) 研究組織

中世芸能(能・狂言)、近世芸能(浄瑠璃・歌舞伎)、民俗芸能(祭祀・法会を含む)の三つの柱を立て、各分野に専任教員(兼任研究員)、非常勤研究員、客員研究員など総勢28名を配して、研究を推進している。

研究代表者はプロジェクト全体の取りまとめの役割を担い、三つの専門分野の統括者によるプロジェクト運営委員会を主宰している。三つの専門分野の統括者はその分野の研究者と相互に連絡を取りながら、各年度の公開研究会を企画・実行し、その研究成果を刊行する任を担っている。

平成26年度には中世芸能分野、平成27年度には近世芸能分野、平成28年度には民俗芸能分野に、それぞれ軸を置いた公開研究会を実施し、最終年度である平成29年度には三つの分野を統合した公開研究会を実施することにより、文字どおり日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成を目指している。

研究支援体制としては、本学の運営母体である行吉学園の全面的なバックアップ体制のもとに、古典芸能研究センターの事務担当者が研究代表者と緊密な連携をとりながら、プロジェクトの円滑な進行を支えている。

共同研究機関等との連携状況としては、古典芸能の文献学的研究において国文学研究資料館と、仮面の研究において国立民族学博物館と、古典芸能と民俗芸能の相互関係の研究において国立歴史民俗博物館と、古典芸能の演劇的側面の研究について京都造形芸術大学舞台芸術研究センターと、沖縄の祭祀・芸能研究について沖縄県立大学附属研究所と、能楽の研究において法政大学能楽研究所と、古典芸能の身体技法の研究について京都市立大学日本伝統音楽研究センターと、それぞれ連携して研究を進めている。

また、本学の姉妹提携校ハワイ大学マノア校の演劇学部教授ジュリー・イエッツィー氏には平成26年度に古典芸能研究センターの客員研究員を委嘱し、連携して研究を進めた。

(3) 研究施設・設備等

・研究施設

名称: 神戸女子大学古典芸能研究センター

所在地: 神戸市中央区中山手通2-23-1 神戸女子大学教育センター2階

使用総面積: 710 m²

利用者数:

平成25年度: 学内103名 / 学外127名

平成26年度: 学内110名 / 学外292名

平成27年度: 学内42名 / 学外341名

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

平成 28 年度:学内 16 名/学外 280 名

平成 29 年度:学内 19 名/学外 338 名

注)本利用者数は来室者記名簿及び記名票に拠るもので、所員の利用や講演会や展示等、特別な催しの際の来室者数は含めていない

・研究設備

設置(所蔵)年度と名称:

平成 25 年度:資料保管設備 一式

展示設備 一式

平成 26 年度:奈良絵本 謡本 八帖

平成 27 年度:けいせい七堂伽藍 一冊

利用時間:各設置(所蔵)後常用使用

(4)研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

まず、今回の補助金を受けての古典芸能研究センターのリニューアル完成のお披露目を兼ねて、平成 26 年 6 月 7 日に神戸女子大学古典芸能研究センターリニューアル記念講演会「古典芸能研究の未来」を開催し、中世芸能、近世芸能、民俗芸能の三つの分野から講演をおこなった(大谷節子「〈中世芸能の視点から〉能『高砂』の解釈史」* 1、阪口弘之「〈近世芸能の視点から〉作者と編者—寛文期江戸浄瑠璃と書肆—」* 2、川森博司「〈民俗芸能の視点から〉来訪神儀礼と『はじまりの芸能』」* 3、以上の内容は『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9 号に掲載)。この企画は、「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」を旨とする本学にとって、全体的なコンセプトを示す機会となった。

年度ごとの公開研究会については、第 1 回目は平成 26 年 11 月 29 日、30 日の両日に国際シンポジウム「見つめる能面・能面を見つめる」を開催し、その成果は『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』(勉誠出版、平成 28 年 3 月、329 頁)* 4 という単行本の形で公刊した。国際的かつ学際的な視野から各分野の第一線の研究者による論考を集約するとともに、能楽シテ方、金剛流宗家の金剛永謹氏による「演者の視点から見る能面」* 5 という論考も含めることによって、まさに能楽の横断的総合的研究の成果を示すものとなっている。

この公開研究会にあわせて、古典芸能研究センター展示室において「仮面の芸能・人形の芸能」と題する特別展を開催した。また、この展示においては、国際化を意識して、日本語・英語の両言語による展示解説文を作成した。

第 2 回目は、平成 27 年 11 月 28 日に「説経節—情念の語り物—」と題する公開研究会を実施した。また、あわせて「説経『おぐり』の世界—説経節の広がり—」という企画展を古典芸能研究センター展示室において開催した。ここでは当センター所蔵(志水文庫)の資料も活用した。さらに古典芸能研究センター特別講座においても「説経節—人は神仏に何を託そうとするのか—」と題する 6 週連続の講座を平成 27 年 10 月 14 日から 11 月 18 日にかけて実施し、公開研究会および特別講座の成果刊行物(『説経——人は神仏に何を託そうとするのか—』* 6)を平成 29 年 3 月に刊行した。また、平成 30 年 3 月には、これを補う資料集として『説経稀本集』* 7 を刊行し、海外所蔵の貴重資料を研究に活用する道を開いている。

第 3 回目は、平成 28 年 11 月 26 日に「伝統と現代をつなぐもの—民俗芸能と古典芸能—」と題する公開研究会を開催した。また、あわせて「播磨の民俗芸能点描—民俗学者西谷勝也氏の写真より—」という企画展を古典芸能研究センター展示室において開催した。この成果については『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11 号に掲載している。

第 4 回目は、この 5 年間のプロジェクトのまとめとして、平成 29 年 11 月 25 日に「古典芸能研究の横断と総合」と題する公開研究会を実施した。横断という側面に関しては、当センターが中世芸能、近世芸能、民俗芸能の三つの柱を立てて研究を進めていることから、この三つ

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

の分野を横断して考える視野を提供することが必要とされる。また、総合という側面については、この三つの分野を結びつける視点が必要とされる。歴史のうねりの中にさまざまな芸能を位置づけていく視点と、表現の問題として共通のありようを見ていこうとする視点の間で、ダイナミックな議論が展開され、日本の古典芸能の研究を風通しのよい場所に置く展望が得ることができた。この研究会の成果については『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』12号に掲載している。

国際的な連携に関しては、平成 25 年 11 月に大谷節子、川森博司、海老久人の 3 名がハワイ大学マノア校を訪問し、演劇学部のジュリー・イエツィー教授と面会することから、このプロジェクトについての協力関係をスタートさせ、平成 26 年度には客員研究員を委嘱し、上記「見つめる能面・能面を見つめる」の国際シンポジウムにもコメンテーターとして登壇いただき、成果刊行物『能面を科学する』に「仮面と化粧、博物館、そして誤解をめぐる考察」* 8 という論考を寄稿していただいた。

また、平成 26 年 11 月の国際シンポジウムには、ケルン大学演劇学研究所長のピーター・W・マルクス教授に「ヨーロッパの仮面と仮面劇」* 9 について講演いただく予定であったが、当人の急病により来日ができなかった。かわって、英文原稿をパワーポイントで示しながら、その日本語訳を読み上げる形となったが、講演原稿をもとにした論考を『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』に収録することができた。

韓国に関しては、韓国世宗大学校の李応寿教授(韓日芸能研究所長)に「韓国の仮面と仮面劇」* 10 について講演いただき、これをもとにした論考も『能面を科学する』に収録している。

また、ハワイ在住の能面研究家・収集家のスティーヴン・マーヴィン氏にコメンテーターとして登壇いただき、その後の考察を加えた論考「能面模写とその図像的特徴、および能面制作に関するさらなる考察」* 11 を『能面を科学する』に収録した。

さらに、平成 29 年のまとめの公開研究会においては、「語り物」という視点が横断と総合のために有効であると考え、日本の語り物の研究をグローバルな視点から長年進めてきた時田アリソン氏に研究会の口火を切る講演をお願いした。ここで示された世界の語り物の広がりの中に日本の語り物を位置づける視座は、日本の古典芸能の特質を考えていくうえでの土台を提供してくれるものとなった。

先に挙げた平成 29 年 3 月刊行の『説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—』と平成 30 年 3 月刊行の『説経稀本集』には、フランクフルト大学と連携してフォーレッチ・コレクション(フランクフルト市立工芸博物館)所蔵資料の翻刻および解説を掲載している。

研究代表者の川森は平成 26 年 2 月と平成 27 年 2 月に韓国国立民俗博物館(ソウル市)を訪問し、民俗芸能の側面からの日韓比較について研究の連携を模索した。韓国では平成 27 年に無形遺産学会が発足し、その中ではユネスコの無形遺産である古典芸能・民俗芸能がテーマとなるので、川森はこの学会に日本側の副会長として加わり、連携して研究を進めており、平成 28 年 11 月には韓国の全州市で開催された無形文化遺産をテーマとするフォーラムで日本の古典芸能の現状について発表をおこなうとともに討論に参加した。

所蔵資料の整理・公開については、平成 25 年度に伊藤正義文庫「電子版和書目録」を作成し、ホームページ上に公開した。伊藤正義文庫貴重書の WEB 公開については、より包括的な「和書デジタルアーカイブ」という形に拡大して平成 29 年度に公開することができた。平成 29 年度には、志水文庫所収の資料について各分野の専門家による閲覧・調査を実施し、古典芸能研究センター所員が公開のための教授および助言を受け、本格的な活用に向けての歩みを進めている。

収蔵資料を活用した展示として、公開研究会に関わるもののほかに、「志水文庫の浮世

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

絵」(平成 26 年 4～5 月)、「〈写真展〉沖縄の祭祀 1978-2013」(平成 26 年 8～11 月)、「涅槃図の世界」(平成 27 年 2～4 月)、「来迎の姿—練供養と来迎図—」(平成 27 年 5～6 月)、「京の謡文化とその広がり—京観世岩井家を中心に—」(平成 27 年 7～8 月)、「ワキ方福王流の謡と歴史—江崎家旧蔵資料を中心に—」(平成 28 年 2～3 月)、『食満南北著『大阪藝談』刊行記念展示「食満南北」(平成 28 年 5～6 月)、「繋がる資料—志水文庫蔵黄檗宗関連資料を中心に—」(平成 28 年 6～7 月)、「幕末・近代の狂言の絵師たち」(平成 28 年 9～10 月)、「此岸から彼岸へ—志水文庫蔵仏教版画展—」(平成 29 年 2～3 月)、「謡のたのしみ—謡う・聴く・読む—」(平成 29 年 4～6 月)、「源氏物語の広がり—古典芸能の世界—」(平成 29 年 9～11 月)、「近代神戸の能楽—大正・昭和初期を中心に—」(平成 29 年 11 月～30 年 1 月)、「志水文庫の大津絵と大原神社の絵馬「踊り子図」(平成 30 年 2～3 月)を開催した。

特に食満南北著『大阪藝談』*12 については、平成 28 年 5 月にその翻刻に解説を付した単行本を刊行し、関西における芸能の実態を研究するための貴重な資料として一般に活用が可能な状態となっている。

沖縄祭祀資料データベースについては、平成 27 年度に英語版を作成し、ホームページ上で公開した(まだ部分的で全体の完成に向けて作業中である)。また、データ補充のための追跡調査を、沖縄祭祀資料データベースおよび喜多文庫民俗芸能資料データベースについて、継続しておこなっている。

このように、文字どおり「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」という視点に沿って、公開研究会の開催、成果物の刊行、資料の整理と公開、国際的な研究ネットワークの形成という研究プロジェクトの目的を着実に遂行することができた。

<優れた成果が上がった点>

公開研究会の内容をもとにして『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』と『説経—人は神仏に何を託そうとするのか—』という 2 冊の単行本を広く研究者・一般読者に利用できる形で刊行できたことは、大きな成果であったと考えている。

国内・国外の両面において、実質的な研究ネットワークの形成が進んだことは、このプロジェクトに採用されたことによる大きな恩恵であった。

<課題となった点>

専門分野で研究成果を上げていくことと、それを教育・普及という形でより広く一般市民向けに発信していくことは、両立がむずかしい側面があり、教育・普及という側面については、今後の課題として残された部分が大きい。

<自己評価の実施結果と対応状況>

自己評価については、中世芸能分野、近世芸能分野、民俗芸能・沖縄祭祀分野それぞれの学内担当者 3 名(樹下、井上、川森)による運営委員会を組織し、月例の会議で進捗状況の点検をおこなうとともに、大学全体の部局長会および文学部教授会において定期的に進捗状況を報告し、より広い視野から自己評価をおこないながらプロジェクトを進めた。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

外部評価については、中世芸能、近世芸能、民俗芸能・沖縄祭祀それぞれの分野の学外の専門研究者に依頼して、年度ごとに評価を受けながらプロジェクトを進めた。

<研究期間終了後の展望>

このプロジェクトの成果を踏まえ、中世芸能、近世芸能、民俗芸能・沖縄祭祀の 3 分野を横

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

断的・総合的に研究する拠点としての活動を継続するとともに、その成果を教育に活かしていく活動を推進し、学内外・国内外への発信活動も強化していきたいと考えている。

<研究成果の副次的効果>

この5年間の研究活動を通じて、伊藤正義文庫、志水文庫等、本学所蔵資料の重要性を再認識することができ、学外にも発信することができた。また、公開研究会をとおして、狭義の古典芸能を超えた人文科学系のネットワークを形成することができた。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------|--------------------|-----------------|
| (1) <u>古典芸能</u> | (2) <u>能面</u> | (3) <u>説経</u> |
| (4) <u>人形浄瑠璃</u> | (5) <u>民俗芸能</u> | (6) <u>沖縄祭祀</u> |
| (7) <u>仏教版画</u> | (8) <u>発生の学的視点</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

<中世芸能分野>

- 1 阿部泰郎 2018「中世の縁起・説話における「結界破り」と「穢れを負う聖」の伝承」『宗教民俗研究』27(日本宗教民俗学会)、査読有
- 2 阿部泰郎 2017「絵ものがたりとしての『道明寺縁起』絵巻の世界」『道明寺と日高川—道成寺縁起と流域の宗教文化』和歌山県立博物館(特別展図録)、査読無
- 3 天野文雄 2018「近代日本の能楽観(その三)—「能の美」ということをめぐって—」『舞台芸術』21、pp.167-175、査読無
- 4 天野文雄 2017「大蔵虎明と萩原兼従」『武蔵野文学』65、pp.13-19、査読無
- 5 天野文雄 2017「『殺生石』と源翁禅師の事績」『鏡仙』672、pp.3-5、査読無
- 6 天野文雄 2017「《三輪》の「作意」、その総合的な把握」『おもて』136(大槻能楽堂会報)、pp.7-9、査読無
- 7 天野文雄 2017「《源氏供養》の紫式部はなぜ烏帽子を着けているのか」『おもて』135(大槻能楽堂会報)、pp.9-11、査読無
- 8 天野文雄 2017「「白髭の曲舞」と能「白髭」」『能』716(京都観世会館会報)、pp.7-7、査読無
- 9 天野文雄 2017「弘治三年の駿府の「観世大夫」は宗節か—戦国期における観世座の地方下向望見—」『能狂言』15、pp.127-134、査読有
- 10 天野文雄 2017「《葵上》における生霊御息所の描かれ方」『おもて』133(大槻能楽堂会報)、pp.7-9、査読無
- 11 天野文雄 2017「《経正》の作者について」『おもて』(大槻能楽堂会報)134、pp.7-9、査読無
- 12 天野文雄 2017「近代日本の能楽観とその遡源(その二)—「地謡」理解をめぐって—」『舞台芸術』20、pp.185-192 査読無
- 13 天野文雄 2016「世阿弥の芸道思想と禅—『花鏡』の「一行三昧」をめぐって—」『禅文化』241、pp.23-31、査読無
- 14 天野文雄 2016「『隅田川』の「死の縁」をめぐって」『廣田鑑賞会能解説冊子』、pp.7-9、査読無
- 15 天野文雄 2016「二人の三郎—世阿弥と音阿弥でたどる能楽史—」『学会会報』、pp.56-60、査読無
- 16 天野文雄 2016「「秀次本謡抄」の面影—養老寺藏『養老之注』をめぐって—」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10、pp.1-19、査読無
- 17 天野文雄 2016「乾山作『色絵能絵皿』について」『観世』83(1)、pp.40-48、査読無
- 18 天野文雄 2016「佐渡と世阿弥—「配流の理由」「佐渡での生活」「帰還の成否」についての再考—」『民族芸術』32、pp.40-44、査読有
- 19 天野文雄 2016「『歌占』の「作意」に挑む」『鏡仙』657、pp.3-4、査読無
- 20 天野文雄 2016「「直面」からみえてくる能の変化と能の「質」」『おもて』127(大槻能楽堂会報)、pp.9-11、査読無
- 21 天野文雄 2016「《四位の少将(通小町)》の背後にあるもの」『おもて』130、pp.5-7、査読無
- 22 天野文雄 2016「鏡板の絵が松になった時期再考」『おもて』129、pp.7-9、査読無

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

- 23 天野文雄 2016「『駒井重勝日次記抄』等の秀吉所演の能番組』『おもて』128、pp.7-9、査読無
- 24 天野文雄 2016「世阿弥と禅、その一斑』『能』(京都観世会館会報誌)、pp.1、査読無
- 25 天野文雄 2016「近代日本の能楽観とその遡源(その二)—「地謡」理解をめぐる—』『舞台芸術』20、pp.185-192、査読無
- 26 海老久人 2017「W. B. イェイツと能：ひとつの異文化翻訳』『神戸女子大学文学部紀要』50、pp.23-33、査読無
- 27 大谷節子 2018「狂言「八句連歌」の「をかし」——狂言と俳諧連歌——』『国語と国文学』掲載予定、pp.1-15、初稿中、査読有
- 28 大谷節子 2018「浅野太左衛門家旧蔵『徒歌授受伝』『能楽余録』解題と翻刻』『成城国文学論集』40、pp.61-88、査読無
- 29 大谷節子 2017「狂言「かくすい」考』『成城国文学論集』39、pp.55-72、査読無
- 30 大谷節子 2015「〈中世芸能の視点から〉能「高砂」の解釈史』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.1-13、査読無 * 1
- 31 大谷節子 2014「世阿弥の文学—ワキの視座から読む修羅の能—』『観世』81(5)、pp.26-33、査読無
- 32 大谷節子 2014「世阿弥自筆本「カシワザキ」以前—宗牧独吟連歌注紙背「柏崎」をめぐる—』『国語国文』83(12)、pp.1-23、査読有
- 33 大山範子 2016「神戸湊川能楽堂略史(二)—大正・昭和初期の神戸—』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10、pp.91-100、査読無
- 34 大山範子 2017「謡曲《書写鏡》について』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11、pp.131-142、査読無
- 35 大山範子 2015「資料紹介 手塚亮太郎・貞三関係能楽資料(附:手塚貞三略年譜)』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.126-146、査読無
- 36 大山範子 2014「神戸湊川能楽堂略史(一)—設立期前後の神戸—』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』8、pp.84-94、査読無
- 37 大山範子 2014「資料紹介 平松家旧蔵福王流番外謡曲八百十番本・番外謡目録』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』8、pp.109-110、査読無
- 38 川崎剛志 2018「備前国西大寺における縁起絵巻群の形成と保持』『古文書研究』84、pp.16-28、査読有
- 39 川崎剛志 2017「承久の乱後の熊野三山検校と熊野御幸』『アジア遊学』221、pp.218-227、査読無
- 40 川崎剛志 2017「絵画化された説経—絵巻・奈良絵本のさまざま—』『説経 人は神仏に何を託そうとしたのか』(和泉書院)、pp.83-99、査読無
- 41 川崎剛志 2017「『箕面寺縁起』の撰述と受容』『就実表現文化』11、pp.1-16、査読無
- 42 川崎剛志(Carina Roth 英訳) 2015「The Invention and Reception of the Mino' odera engi」、Japanese Journal of Religious Studies 42(1)、pp.133-155、査読有
- 43 川崎剛志 2014「「当麻寺流記」の〈発見〉』『中世文学』59、pp.54-62、査読有
- 44 川崎剛志 2014「金峯山の埋経と役行者の行道』『説話文学研究』49、pp.69-72、査読有
- 45 小林健二 2017「「小敦盛」絵巻の変容—願得寺実悟の関与をめぐる—』『国語と国文学』94(7)、pp.3-17、査読無
- 46 小林健二 2017「『舞の本絵巻』の制作をめぐる諸問題—付、幸若舞曲の絵入り本—覧稿(増補改訂)』『国文学研究資料館紀要 文学研究篇』43、pp.1-55、査読無
- 47 小林健二 2016「絵画から見る楽劇史—研究資料としての能絵—』『楽劇学』23、pp.69-78、査読無
- 48 小林健二 2016「宮崎文庫記念館蔵「敦盛」絵巻放—翻刻と考察—』『かがみ』46、pp.26-79、査読無
- 49 小林健二 2013「能から物語草子へ—《玉井》と『かみよ物語』絵巻—』『國學院雑誌』114(11)、pp.37-53、査読無
- 50 小林健二 2013「屏風絵に描かれた能—香川県立ミュージアム「源平合戦図屏風」をめぐる—』『能と狂言』11、pp.3-14、査読無
- 51 関屋俊彦 2018「新架蔵『能間』について』『国文学』101、pp.219-227、査読有
- 52 関屋俊彦 2017「大阪能楽会館蔵書整理』『ニューズレター』7、pp.1-2、査読無
- 53 関屋俊彦 2017「第 28 回能楽フォーラム この人に聞く—関西大学図書館収蔵能楽文書(井狩本)をめぐる—』『ニューズレター』5、pp.4-5、査読無
- 54 関屋俊彦 2017「監修井あらすじ:〈桜川〉〈魚説教〉〈邯鄲〉』『篠山春日能』44、pp.5-6、査読有
- 55 関屋俊彦 2017「国文学(中世)—関大中世文学研究者の水脈—』『国文学』100、pp.7-10、査読有
- 56 関屋俊彦 2017「新蔵生田文庫所蔵『大西閑雪会員名簿』について』『国文学』100、pp.145-157、査読有
- 57 関屋俊彦 2017「第 27 回能楽フォーラム この人に聞く—関西大学図書館新収蔵能楽文書(生田本)をめぐる—』『ニューズレター』4、pp.2-3、査読有
- 58 関屋俊彦 2016「上方芸能—四ジャンルへの期待「狂言 秘められている発展性』『上方芸能』199、

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

pp.34-35、査読無

- 59 関屋俊彦 2016「トラウマ『東海道四谷怪談』『矢の会』58、査読無
- 60 関屋俊彦(MINAE YAMAMOTO SAVAS 英訳) 2016「Okura Toraaki(ra):comic texts and theory」『A HISTORY OF JAPANESE THEATRE』、pp.85-86、査読有
- 61 関屋俊彦 2016「『わらんべ草』の転写事情」『紫明』39、pp.80-83、査読無
- 62 関屋俊彦 2016「下田文庫蔵『謡曲八百番目録 福王盛充奥書』の紹介」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10、pp.118-129、査読無
- 63 関屋俊彦 2016「監修并あらすじ:〈杜若〉〈昆布売〉〈春日龍神〉」『篠山春日能』43、pp.5-6、査読有
- 64 関屋俊彦 2015「狂言歌謡—《呼声》《蝸牛》に寄せて—」『国立能楽堂』384、pp.19-22、査読有
- 65 関屋俊彦 2014「梅若座盛衰史試案」『関西大学東西学術研究所 研究報告書 日本文学・芸能研究班』、平成21年~24年度、pp.1-9、査読有
- 66 長田あかね 2017「〈資料紹介〉江崎家旧蔵資料 横山杢人より江崎欽次朗あて書簡・葉書十四通(下)」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11、pp.92-103、査読無
- 67 長田あかね 2017「資料紹介 長命茂兵衛家文書(三)」『芸能史研究』219、pp.34-51、査読有
- 68 長田あかね 2016「〈資料紹介〉江崎家旧蔵資料 横山杢人より江崎欽次朗あて書簡・葉書十四通(上)」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10、pp.130-137、査読無
- 69 長田あかね 2016「資料紹介 長命茂兵衛家文書(二)」『芸能史研究』213、pp.16-31、査読有
- 70 長田あかね 2016「神戸女子大学古典芸能研究センター企画展「ワキ方福王流の謡と歴史—江崎家旧蔵資料を中心に—」展示目録(増補版)」、全29頁、神戸女子大学古典芸能研究センター発行、大山範子氏と共同執筆
- 71 長田あかね 2015「資料紹介 長命茂兵衛家文書(一)」『芸能史研究』211、pp.33-51、査読有
- 72 長田あかね 2015「資料紹介 神戸女子大学図書館蔵「江戸城謡初之図」」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.88-105、査読無
- 73 宮本圭造 2017「狂言台本研究の現状と課題」『武蔵野文学』65、pp.20-26、査読無
- 74 宮本圭造 2017「金春家本面の復元」『能と狂言』15、pp.76-92、査読有
- 75 宮本圭造 2017「「御家石橋」の成立と相伝の経緯」『能楽研究』41、pp.113-140、査読無
- 76 宮本圭造 2016「笛役者伊藤安中伝」『国立能楽堂調査研究』10号、pp.11-22 査読有
- 77 宮本圭造 2016「面打井関考」『能楽研究』40、pp.61-133、査読無
- 78 宮本圭造 2016「伏見稻荷大社御旅所の能舞台」『朱』59、pp.124-153、査読無
- 79 宮本圭造 2015「大和の村落祭祀と能」『万葉古代学研究年報』13、pp.65-92、査読無
- 80 宮本圭造 2015「面打ホウライ考」『能楽研究』39、pp.1-20、査読無
- 81 宮本圭造 2014「『仮面譜』の成立」『能楽研究』38、pp.35-68、査読無
- 82 宮本圭造 2014「「能操り」覚書」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』8、pp.67-73、査読無

〈近世芸能分野〉

- 1 井上勝志 2018「『傾城酒呑童子』の構造と趣向」『神女大國文』29号、pp.26-38、査読無
- 2 井上勝志 2016「『都誓願寺如来之御本地』紹介と翻刻」『神戸女子大学 古典芸能研究センター紀要』10号、pp.101-117、査読無
- 3 井上勝志 2016「奥浄瑠璃本の依拠本としての六段本—佐藤理作(利作)旧蔵書から—」『神女大國文』27、pp.26-37、査読無
- 4 井上勝志 2013「相模椽藤原吉勝正本『善光寺堂供養』紹介と翻刻」『近松研究所紀要』24、pp.81-101、査読有
- 5 井上勝志 2013「作者近松の売り出し」『やそしま』7、pp.30-48、査読無
- 6 河合眞澄 2015「役者評判記の挿絵—上演実態の反映—」『国語と国文学』92(9)、pp.3-19、査読有
- 7 河合眞澄 2015「役者評判記の戦略—八文字屋と江島屋—」『演劇研究会会報』41、pp.13-19、査読無
- 8 川端咲子 2018「豊竹山城少掾旧蔵段物集[乱曲集](写真版)について—志水文庫蔵横山重氏旧蔵資料整理の一環」『神女大國文』29、pp.39-49、査読無
- 9 川端咲子 2017「豊竹山城少掾旧蔵段物集[乱曲集](写真版)について—志水文庫蔵横山重氏旧蔵資料整理の一環」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11、pp.67-82、査読無
- 10 川端咲子 2017「「をぐり」の物語—十王由来譚」『説経：人は神仏に何を託そうとするのか』(和泉書院)、pp.142-156、査読無
- 11 川端咲子 2017「食満南北脚色、浄瑠璃「恩讐の彼方に」について」『神女大國文』28、pp.33-43、査読無
- 12 川端咲子 2016「享保三年の競演—絵入狂言本『けいせい山榎太夫』の検討—」『上方文藝研究』13、pp.80-93、査読有
- 13 川端咲子 2016「絵入狂言本『けいせい山榎太夫』の検討—嵐座・大和山座・都座—」『神戸女子大学古典

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

芸能研究センター紀要』10、pp.66-83、査読無

- 14 川端咲子 2015「『二十五菩薩功德集』について」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.106-125、査読無
- 15 川端咲子 2014「浄瑠璃『三世相』における工夫」『神女大國文』25、pp.13-22、査読無
- 16 阪口弘之 2017「『すわのほんぢ兼家』と『かうかの三郎かね家』」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11、pp.52-66、査読無
- 17 阪口弘之 2016「土佐少掾段物集と抜本一付タリ、『建武軍記』紹介—」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10、pp.20-50、査読無
- 18 阪口弘之 2015「〈近世芸能の視点から〉作者と編者—寛文期江戸浄瑠璃と書肆」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.15-30、査読無 * 2
- 19 阪口弘之 2014「享保五年京都二の替り狂言本—自笑と其磧—」『藝能史研究』204、pp.1-28、査読有
- 20 阪口弘之 2013「『清盛物語』の構想」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』7、pp.18-31、査読無
- 21 林久美子 2016「役行者千年忌と元禄期の演劇—『丹州千年狐』とその関連作品をめぐって—」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10、pp.51-65、査読無

〈民俗芸能・沖縄祭祀芸能分野〉

- 1 小栗栖健治 2017「死後世界の形成と熊野観心十界曼荼羅」『米沢史学』33、pp.1-10、査読無
- 2 小栗栖健治 2017「六十六部行者休造の満願供養」『村山民俗』31、pp.64-74、査読無
- 3 小栗栖健治 2016「播磨と本願寺—英賀から亀山へ—」『播磨学紀要』20・21 合併号、pp.62-75、査読無
- 4 小栗栖健治 2016「『西国道中案内記』」(播磨歴史史料研究会、代表小栗栖健治)『播磨学紀要』20・21 合併号、pp.93-108、査読無
- 5 小栗栖健治 2015「伊勢・志摩の熊野観心十界曼荼羅」『西行学』6、pp.34-48、査読無
- 6 小栗栖健治 2015「祭りの歴史と暮らし」『いひほ研究』7、pp.4-15、査読無
- 7 川森博司 2017「現代社会を論じる方法—民俗学における都市と農村の議論から—」『神女大史学』34、pp.23-40、査読無
- 8 川森博司 2016「現代社会を論じる視点—日本民俗学を中心に—」『神女大史学』33、pp.42-56、査読無
- 9 川森博司 2016「〈研究ノート〉現代民俗誌への模索と課題—『高砂市史』における試みから—」『現代民俗学研究』9、pp.55-65、査読有
- 10 川森博司 2015「〈民俗芸能の視点から〉来訪神儀礼と「はじまりの芸能」」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.31-36、査読無 * 3
- 11 川森博司 2013「〈インタビュー〉民俗芸能研究の背景—娘から見た喜多慶治—」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』7、pp.38-51、査読無
- 12 久万田晋 2017「南城市の民俗芸能概観」『沖縄県立芸術大学と南城市との包括連携事業 南城市地域民俗芸能調査委託業務報告書』、pp.1-6、査読無
- 13 久万田晋 2016「近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程 エイサーを事例として」『現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践 島嶼地域研究・教育の拠点形成』(文部科学省特別経費概算要求プロジェクト平成 27 年度成果報告書)琉球大学国際沖縄研究所、pp.207-224、査読無
- 14 久万田晋 2015「戦後沖縄、二つの芸能コンクール」『神奈川大学評論』82、pp.136-139、査読無
- 15 久万田晋 2014「沖縄音楽を俯瞰する」『多文化社会の文化的市民権』(平成 23-25 年度科学研究費補助金基盤研究 B<多文化社会におけるメディアの公共性と文化的市民権>(研究代表者毛利嘉孝)研究プロジェクト)多文化メディア市民研究会、pp.97-101、査読無
- 16 高阪薫 2015「沖縄祭祀の場と霊力—信仰の本質に迫る—」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.51-77、査読無
- 17 武藤美也子 2017「2016 年粟国島「ヤガンウユミ」祭祀後追い調査レポート」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11、pp.104-110、査読無
- 18 武藤美也子 2015「石垣島・西表島祖納後追い調査報告」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9、pp.84-87、査読無

〈図書〉

〈中世芸能分野〉

- 1 神戸女子大学古典芸能研究センター編 2018 『絵入謡本と能狂言絵』(神戸女子大学古典芸能研究センター資料集 2)、総頁 140(予定)、編集中
- 2 神戸女子大学古典芸能研究センター編 2016 『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』、勉強出版、総頁 329 * 4
(4 進捗状況・研究成果等と言及した収録論考
* 5 金剛永謹 「演者の視点から見る仮面」 pp.57-64

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

- * 8 ジュリー・イエツィー(川森博司訳)「化粧と仮面、博物館、そして誤解をめぐる考察」 pp.173-177
- * 9 ピーター・W・マルクス(海老久人訳)「ヨーロッパの仮面と仮面劇」 pp.67-92
- * 10 李応寿「韓国の仮面と仮面劇」 129-148
- * 11 スティーヴン・マーヴィン(海老久人訳)「能面模写とその図像的特徴、および能面制作に関するさらなる考察」 pp.229-243)
- 2 神戸女子大学古典芸能研究センター編 2018『絵入謡本と能狂言絵』(神戸女子大学古典芸能研究センター資料集 2)、総頁 140(予定)、編集中
- 3 阿部泰郎 2018『中世日本の世界像』、名古屋大学出版会、総頁 593
- 4 阿部泰郎 2018『『瑜祇経見聞』(第一)解題』(中世禅籍叢刊 12『稀観禅籍集 続』を分担執筆)臨川書店、
- 5 阿部泰郎 2018『『密宗超過仏祖決』解題』(中世禅籍叢刊 12『稀観禅籍集 続』を分担執筆)臨川書店、734-738 頁
- 6 阿部泰郎 2018『『逸題無住聞書断簡』(補遺)解題等』(中世禅籍叢刊 12『稀観禅籍集 続』を分担執筆)臨川書店、745-747 頁
- 7 阿部泰郎 2017「真福寺所蔵安養寺流聖教について」(中世禅籍叢刊 11『聖一派続』を分担執筆)臨川書店、616-631 頁
- 8 阿部泰郎 2016『『瑜伽伝心鈔』解題』(中世禅籍叢刊 7『禅教交渉論』を分担執筆)臨川書店、697-708 頁
- 9 天野文雄 2017『能楽名作選(上下)』角川書店、(上)383 頁、(下)391 頁
- 10 天野文雄 2016『禅からみた日本中世の文化と社会』ペリかん社、総頁 406
- 11 天野文雄 2016(大槻文蔵監修)『世阿弥を学び、世阿弥に学ぶ』大阪大学出版会、総頁 317
- 12 大谷節子 2018「能と毘沙門堂文庫本古今集注——「女郎花」「姨捨」を中心に——」(国文学研究資料館編『中世古今和歌集注釈の世界——毘沙門堂本古今集注をひもとく——』を分担執筆)勉誠出版、230-248 頁
- 13 大谷節子 2017(共著)『無辺光——幽雪間書』、岩波書店、総頁 301 頁
- 14 大谷節子 2016「岩井直恒音曲伝書『あやはとり』解題と翻刻」(『謡を楽しむ文化——京都の謡の風景』を分担執筆)京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター発行、109-125 頁
- 15 大谷節子 2016「世阿弥、その先達と後継者」「融をめぐって」(天野文雄編『世阿弥を学び、世阿弥に学ぶ』を分担執筆)大阪大学出版会、156-172 頁、174-185 頁
- 16 大谷節子 2016「狂言「釣狐」と『無門関』第二則「百丈野狐」」(天野文雄編『禅からみた日本中世の文化と社会』を分担執筆)ペリかん社、133-154 頁
- 17 大谷節子 2013「『頼政』面を溯る—能・狂言面データベースの可能性—」(楊曉捷・小松和彦・荒木浩編『デジタル人文学のすすめ』を分担執筆)勉誠出版、263-283 頁
- 18 大山範子 2018「湊川神社神能殿」(小林保治・表きよし編『カラ一百科見る・知る・読む 能舞台の世界』を分担執筆)勉誠出版、234-237 頁
- 19 大山範子 2014「第 30 章 古今和歌集仮名序」(宇佐見文理・青木孝夫編『芸術理論古典文献アンソロジー—東洋篇』を分担執筆)京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、247-254 頁
- 20 小林健二 2017(監修)『能絵鑑』独立行政法人日本芸術文化振興会国立能楽堂、総頁 56
- 21 小林健二 2015(編集)『金春安住集』歌舞後考録』『御用留』(能楽資料叢書 2)野上記念法政大学能楽研究所、総頁 260
- 22 小林健二 2014(編著)『言絵 彩色やまと絵』(国文学研究資料館影印叢書 6)勉誠出版、総頁 139
- 23 小林健二 2014「在外絵入り本研究の意義と展望」(人間文化研究機構・国文学研究資料館編『絵が物語る日本—ニューヨーク スペンサー・コレクションを訪ねて』を分担執筆)三弥井書店、9-22 頁
- 24 小林健二 2014「物語絵の方法—スペンサー・コレクション蔵『呉越物語』絵巻をめぐる—」(人間文化研究機構・国文学研究資料館編『絵が物語る日本—ニューヨーク スペンサー・コレクションを訪ねて』を分担執筆)三弥井書店、43-53 頁
- 25 小林健二 2013「絵画化された語り物の世界—「武文図屏風」をめぐる—」(人間文化研究機構・国文学研究資料館編『アメリカに渡った物語絵』を分担執筆)ペリかん社、194-205 頁
- 26 関屋俊彦 2015『続狂言史の基礎的研究』関西大学出版部、総頁 817
- 27 関屋俊彦 2014「世阿弥と狂言師」(『観阿弥生誕 680 年 世阿弥生誕 650 年記念 世阿弥の世界』を分担執筆)京都観世会、99-100 頁
- 28 関屋俊彦 2013『伊藤正義 中世文華論集』第 2 巻、和泉書院、総頁 612(稲田秀雄氏と編集)
- 29 宮本圭造 2017『金春家文書の世界』(編著)、法政大学能楽研究所、総頁 170(7-31、131-149 を分担)
- 30 宮本圭造 2017『近代日本と能楽』(編著)、法政大学能楽研究所、総頁 343(39-80、307-343 を分担)
- 31 宮本圭造 2016「能面の古層—神楽面から見えること—」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『能面を科学する』を分担執筆)勉誠出版、179-205 頁 * 4
- 32 宮本圭造 2015「教養としての謡—室町文化はいかに継承されたか—」(鈴木健一編『形成される教養』を分

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

担執筆)勉誠出版、97-127 頁

- 33 宮本圭造 2015「野上豊一郎の能面研究」(伊海孝充編『野上豊一郎の能楽研究』を分担執筆)法政大学能楽研究所、87-102 頁
- 34 宮本圭造 2013「謡講釈の世界」(鈴木健一編『浸透する教養』を分担執筆)勉誠出版、163-192 頁
- 35 長田あかね 2014「観世元章と大徳寺派僧の交流—萬輝宗旭を中心に—」(松岡心平編『観世元章の世界』を分担執筆)檜書店、37-54 頁

〈近世芸能分野〉

- 1 神戸女子大学古典芸能研究センター編 2017 『説経 一人は神仏に何を託そうとするのか』(神戸女子大学古典芸能研究センター叢書 3)、和泉書院、総頁 379 * 6
- 2 神戸女子大学古典芸能研究センター編 2016 『食満南北著『大阪藝談』』(神戸女子大学古典芸能研究センター叢書 2)、和泉書院、総頁 396 * 12
- 3 神戸女子大学古典芸能研究センター編 2018 『説経稀本集』(神戸女子大学古典芸能研究センター資料集 1)、和泉書院、総頁 148 * 7
- 4 井上勝志 2017「「さんせう太夫」の物語—膚の守の地蔵菩薩と系図の巻物—」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『説経 一人は神仏に何を託そうとするのか』を分担執筆)和泉書院、119-141 頁 * 6
- 5 井上勝志 2016(共編)『食満南北著『大阪藝談』』和泉書院、総頁 396 * 12
- 6 阪口弘之 2016(編著)『食満南北著『大阪藝談』』和泉書院、総頁 396 * 12
- 7 阪口弘之 2018「あいご物語」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『説経稀本集』を分担執筆)和泉書院、54-68 頁、79-87 頁 * 7
- 8 阪口弘之 2018「つほさかのさうし」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『説経稀本集』を分担執筆)和泉書院、65-68 頁、88 頁 * 7
- 9 阪口弘之 2017(高木浩氏との共編)『義太夫年表 昭和篇第四巻』和泉書院、総頁 579
- 10 阪口弘之 2017「語り物としての説経—栄華循環の神仏利生譚—」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『説経 一人は神仏に何を託そうとするのか』を分担執筆)和泉書院、1-10 頁 * 6
- 11 阪口弘之 2017「説経正本「松浦長者」の成立」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『説経 一人は神仏に何を託そうとするのか』を分担執筆)和泉書院、57-180 頁 * 6
- 12 阪口弘之 2015「街道の牛若物語」(鈴木健一編『形成される教養』を分担執筆)勉誠出版、395-421 頁
- 13 阪口弘之 2015(高木浩氏との共編)『義太夫年表 昭和篇第三巻』和泉書院、総頁 660
- 14 阪口弘之 2013(高木浩氏との共編)『義太夫年表 昭和篇第二巻』和泉書院、総頁 573
- 15 信多純一・川崎剛志 2014『現代語訳 完本小栗』和泉書院、総頁 115
- 16 林久美子 2018「五輪五体の身体観—死と再生のメタファー—」(南直人・北山晴一・日比野英子・田端康子編『身体はだれのものか—比較史でみる装いとケア』を分担執筆)昭和堂、109-132 頁
- 17 林久美子 2017「『信太妻』という語り物」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『説経 一人は神仏に何を託そうとするのか』を分担執筆)和泉書院、208-228 頁
- 18 林久美子 2016(共編)『食満南北著『大阪藝談』』和泉書院、135-185 頁 * 12
- 19 林久美子 2015「浄瑠璃にみる神道思想」(田中優子編『日本人は日本をどうみてきたか—江戸から見る自意識の変遷—』を分担執筆)笠間書院、193-203 頁
- 20 林久美子 2014「目録と解説;「近世文学、芸能」」(女性史総合研究会編『日本女性史研究文献目録 1868-2002』第 V 巻解説 V-8 を分担執筆)東京大学出版会、110-113 頁解説、目録データ
- 21 林久美子 2013「『日本武尊吾妻鑑』と『南総里見八犬伝』のトランスジェンダー」(安達太郎・野村幸一郎・林久美子編『表象のトランスジェンダー』を分担執筆)新典社、113-146 頁 1 阪口弘之 2015 「街道の牛若物語」(鈴木健一編『形成される教養』を分担執筆)勉誠出版、総頁 453(395-421 を分担)

〈民俗芸能・沖縄祭祀芸能分野〉

- 1 小栗栖健治 2017「鉾山の祭礼—城下町篠山の象徴—」(『篠山市指定無形民俗文化財 春日神社祭礼』

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

を分担執筆)春日神社祭礼保存会、3頁

- 2 小栗栖健治 2016「天神地祇祭と臨時祭」「平成25年の三ツ山大祭」「文化財としての三ツ山大祭」「播磨国総社三ツ山大祭シンポジウム～三ツ山大祭と姫路のはじまり～」(『悠久の歴史を伝える 播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭』を分担執筆)播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会、4-5頁、16-17頁、24頁、25-33頁
- 3 小栗栖健治 2016「姫路城下の古道」(『姫路城下古道界限』を分担執筆)姫路市教育委員会、3-4頁
- 4 小栗栖健治 2016「姫路のアイデンティティー播磨国総社の一ツ山大祭・三ツ山大祭」播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会、3-6頁
- 5 小栗栖健治 2016「四季の暮らしと年中行事」「旧城下町の年中行事概要」(『姫路の年中行事 共同体編』を分担執筆)姫路市教育委員会、1-14頁、16頁
- 6 小栗栖健治 2016「浜の宮天満宮・氏子地区の組織 宮」(『飾磨津祭礼組織調査報告』を分担執筆)飾磨津祭礼保存会、63-64頁
- 7 小栗栖健治 2016「熊野観心十界曼荼羅」(『地獄絵大全』を分担執筆)洋泉社、88-95頁
- 8 小栗栖健治 2014「三ツ山大祭」のすべて」(播磨学研究所編『三ツ山大祭と祭りのこころ』を分担執筆)神戸新聞総合出版センター、23-50頁
- 9 小栗栖健治 2013『地獄絵の世界』河出書房新社、総頁128
- 10 小栗栖健治 2013「熊野観心十界曼荼羅祭」の社会的受容」(加須屋誠編『図像解釈学—権力と他者(仏教美術論集4)』を分担執筆)竹林舎、155-173頁
- 11 久万田晋 2017(共編)『つくる、つなげる 30年。沖縄県立芸術大学開学 30周年記念誌』沖縄県立芸術大学、総頁200
- 12 久万田晋 2015「第10章 芸能・娯楽—本市における芸能と娯楽の概要と特徴—」(『沖縄市史 第三巻民俗編 冊子編』を分担執筆)沖縄市、140-164頁
- 13 久万田晋 2015(一部遠藤美奈と共著)「第10章第2節 民俗芸能・民謡」(『沖縄市史 第三巻民俗編 冊子編』を分担執筆)沖縄市、1031-1039頁
- 14 久万田晋 2015「第10章第4節 芸能娯楽の戦後の展開」(『沖縄市史 第三巻民俗編 冊子編』を分担執筆)沖縄市、1059-1067頁
- 15 知名定寛 2015「近世琉球の霊魂観と救済」(島蘭進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教 近世から近代へ 第六巻 他者と境界』を分担執筆)春秋社、205-236頁
- 16 知名定寛 2014「近世琉球仏教の二宗体制について」(島村幸一編『琉球 交叉する歴史と文化』を分担執筆)勉誠出版、365-383頁

<学会発表>

- 1 天野文雄 講演「二人の三郎」からみた室町期「能作」史の試み、中世文学会秋季大会、和歌山大学、2017年11月
- 2 天野文雄 シンポジウム報告「能楽研究の現況と課題—『風姿花伝』奥義の意味とそれをめぐる問題をめぐって—」、公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」、神戸女子大学古典芸能研究センター、2017年11月
- 3 大谷節子「福王謡本二題—盛忠本・真名謡本—」、能楽学会、大阪大学、2016年3月
- 4 大谷節子「京観世と片山家」、日本演劇学会、京都外国語大学、2014年11月
- 5 大山範子「近代神戸の演能空間—上田隆一の能楽普及活動を中心に—」、能楽学会能楽フォーラム(関西例会)、神戸市(灘高等学校)、2017年12月
- 6 大山範子「二つの「源氏」—須磨と一ノ谷—」、京都文教大学地域公共政策士資格プログラム・京都文教大学学芸員講座地域連携フォーラム「源氏」的なるものと宇治—地域文化資源を活用したまちの活性化をめざして—、宇治市源氏物語ミュージアム、2015年
- 7 小栗栖健治「地獄を絵解く女性たち—熊野観心十界曼荼羅—」、米沢史学会、山形県立米沢女子短期大

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

学、2016年10月

- 8 小栗栖健治「伊勢・志摩の熊野観心十界曼荼羅」、西行学会、東海学園大学名古屋キャンパス、2014年8月
- 9 河合真澄「『女殺油地獄』の女性たち」、「文学とジェンダー」ミニシンポジウム、大阪府立大学(堺市)、2017年10月
- 10 河合真澄「歌舞伎の中の巡礼」、愛媛大学法文学部附属 四国遍路・世界の巡礼研究センター 公開講演会、愛媛大学(松山市)、2016年10月
- 11 河合真澄「役者評判記の挿絵—上演実態の反映—(その二)」、演劇研究会十月例会、同志社大学(京都市)、2014年10月
- 12 河合真澄「歌舞伎の女性たち—『曾根崎心中』のおはつを中心に—」、「文学とジェンダー」ミニシンポジウム、大阪府立大学(堺市)、2013年11月
- 13 川崎剛志「正統な密教受法者としての役行者」、国際研究集会「修験道の再配置」、カリフォルニア大学サンタバーバラ校(アメリカ)、2017年6月
- 14 川崎剛志「役行者の祖師化と霊山の時空の再構成」、第14回ヨーロッパ日本研究協会国際会議、リュブリャナ大学(スロベニア)、2014年8月
- 15 川崎剛志「『当麻寺縁起』の〈発見〉」、中世文学会秋季大会、ノートルダム清心女子大学(岡山市)、2013年10月
- 16 川端咲子「享保三年の競演—絵入狂言本『けいせい山榎太夫』の検討—」、演劇研究会十二月例会、同志社大学、2015年12月
- 17 川森博司「現代民俗誌への模索と課題—『高砂市史』における試みから—」、現代民俗学会 2016年度年次大会、東京大学東洋文化研究所、2016年5月
- 18 川森博司「民俗学の脱土着化への試みと課題」、日本民俗学会第881回談話会(年会プレシンポジウム「世界のなかの民俗学」)、関西学院大学大阪梅田キャンパス、2015年7月
- 19 久万田晋「沖縄本島地域におけるエイサー伝播の現代的状況」、沖縄民俗学会例会(第4回沖縄民俗学会・日本文化人類学<九州・沖縄地区研究懇談会>合同研究会)、沖縄県立芸術大学、2017年12月
- 20 久万田晋「喜界島と奄美大島の八月踊り旋律の系統関係」、奄美沖縄民間文芸学会喜界島大会、鹿児島県大島郡喜界町役場、2017年9月
- 21 久万田晋"interaction between Eisa and Okinawan popular music" The 12th International Small Island Cultures conference (ISIC12,第12回国際小島嶼文化会議)、沖縄県立芸術大学、2016年6月
- 22 久万田晋「近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程—エイサーを事例として—」、琉球大学国際沖縄研究所「現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践」プロジェクト・公開ワークショップ「交差する地域文化とイノベーション—保護から自律的創生へ—」、沖縄県立博物館・美術館、2016年1月
- 23 久万田晋「沖縄の民俗芸能・ポピュラー音楽にみるローカルとグローバル」、日本音楽表現学会第13回(美ら島)大会シンポジウム<沖縄音楽のローカルとグローバル>、沖縄県立芸術大学、2015年6月
- 24 久万田晋「沖縄の民俗芸能の担い手と学校」、大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究<文化遺産の復興に向けたミュージアムの活用のための基礎的研究 大学共同利用機関の視点から>関連フォーラム<学校芸能の現在(いま)>、国立民族学博物館、2014年11月
- 25 小林健二 司会・パネリスト「絵画からみた楽劇史」、楽劇学会 シンポジウム「能の絵画資料」、国立能楽堂、2015年6月
- 26 小林健二 シンポジウム「変革期における幸若舞曲の展開—絵画化を軸として—」司会・コーディネイター、第14回ヨーロッパ日本研究協会国際会議、リュブリャナ大学(スロベニア)、2014年8月
- 27 小林健二 パネリスト「香吞童子物語の成立と展開—香取本『大江山絵詞』と能『大江山』—」、コロンビア大

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

学 ワークショップ、コロンビア大学、2013 年 11 月

- 28 阪口弘之「近世語り物芸能のなかの「道成寺物」—仮屋芝居『用明天王職人鑑』鐘入の段をめぐって」、芸能史研究会大会、同志社女子大学、2017 年 6 月
- 29 関屋俊彦「大西家蔵本『拾葉抄』について」、六麓会、大阪大学、2018 年 2 月
- 30 関屋俊彦「大阪能楽会館所蔵未刊謡曲について」、六麓会、神戸女子大学教育センター、2017 年 12 月
- 31 関屋俊彦「笑い学入門講座」、関西大学・日本笑い学会、関西大学堺キャンパス、2017 年 7 月
- 32 関屋俊彦「この人に聞く—関西大学図書館新収蔵能楽文書(井狩本)をめぐって—」、主催:能楽学会・共催:関西大学文学部・関西大学なにわ大阪研究班・神戸女子大学古典芸能研究センター、関西大学千里山キャンパス、2017 年 3 月
- 33 関屋俊彦「この人に聞く—関西大学図書館新収蔵能楽文書(生田本)をめぐって—」、主催:能楽学会・共催:関西大学文学部・関西大学なにわ大阪研究班・神戸女子大学古典芸能研究センター、関西大学千里山キャンパス、2016 年 12 月
- 34 関屋俊彦「年譜考証の勧め」、関西大学国文学会、関西大学千里山キャンパス、2016 年 12 月
- 35 関屋俊彦「大蔵と大倉:大久保長安と狂言」、岡崎市図書館交流プラザリぶらホール、2016 年 11 月★学会名等なし
- 36 関屋俊彦「狂言の笑いと名古屋」、関西大学・中日新聞、栄中日文化センター、2016 年 4 月★学会名等なし
- 37 関屋俊彦「沼艸雨氏と能楽観賞会について—関大沼氏旧蔵書におよぶ—」、能楽学会、大阪大学、2014 年 12 月

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

平成 25 年度

- ・公開研究会「第 21 回能楽フォーラム 能から浄瑠璃へ—正本・操りの問題を中心に—」
※研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」の一環として能楽学会と共に開催
日時 平成 25 年 12 月 15 日(日)13 時 30 分~17 時
場所 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- ・データベース
喜多文庫民俗芸能資料データベース(更新)
沖縄祭祀資料データベース(更新)
檜書店旧蔵版木データベース(更新)
古典芸能研究センター蔵能番組データベース(更新)

平成 26 年度

- ・古典芸能研究センターリニューアル記念講演「古典芸能研究の未来」
日時 平成 26 年 6 月 7 日(土)13 時~17 時
場所 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- ・国際研究集会「見つめる能面・能面を見つめる」
日時 平成 26 年 11 月 29 日(土)・30 日(日)13 時~17 時
場所 神戸女子大学ポートアイランドキャンパス B 館 403(AV ホール)
- ・データベース
電子版 和書目録(公開)
公開日 平成 26 年 10 月 23 日
古典芸能研究センター蔵能番組データベース(更新)

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

平成 27 年度

- ・公開研究会「説経節—情念の語り物—」
日時 平成 27 年 11 月 28 日(土)10 時 30 分～16 時 30 分
場所 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- ・データベース
沖縄祭祀資料データベース(更新)
電子版 和書目録(更新)

平成 28 年度

- ・『食満南北著『大阪藝談』』刊行記念講演会
※神戸女子大学古典芸能研究センター開設15周年記念事業
日時 平成 28 年 6 月 11 日(土)13 時～16 時
場所 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- ・平成 28 年度仏教文学会例会「近世における縁起・僧伝の集成と展開」
※神戸女子大学古典芸能研究センター開設 15 周年記念事業共催
日時 平成 28 年 6 月 18 日(土)13 時 30 分～
場所 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- ・公開研究会「伝統と現代をつなぐもの—民俗芸能と古典芸能—」
日時 平成 28 年 11 月 26 日(土)10 時 30 分～17 時
場所 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- ・データベース
沖縄祭祀資料データベース(更新)

平成 29 年度

- ・志水文庫公開ワークショップ
期間 平成 29 年 7 月～平成 30 年 3 月
場所 古典芸能研究センター
- ・公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」
日時 平成 29 年 11 月 25 日(土)11 時～17 時
場所 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- ・データベース
所蔵資料(和書)デジタルアーカイブ(プログラム完成)
沖縄祭祀資料データベース(更新)
檜書店旧蔵版木データベース(更新)
古典芸能研究センター蔵能番組データベース(更新)

<これから実施する予定のもの>

- ・「電子版 和書目録」にデジタルアーカイブを統合

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

平成 25 年度

・展示

写真展「2013年4月「三ツ山大祭」—喜多文庫所蔵写真(1973年)と並べて—」5/13～8/30
 特別展「古典芸能の舞台 神戸」7/20～9/7 於大学図書館1階アートギャラリー
 「語りの文化」9/9～11/18

・特別講座「語りの文化と日本人」

期間 平成 25 年 10 月 21 日～12 月 2 日(毎週月曜日・全6回 ※見学会込み)

・刊行物

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』7号

平成 26 年度

・展示

「志水文庫の浮世絵」4/7～5/30
 特別展「リニューアルオープン記念展示」6/7～8/8
 写真展「沖縄の祭祀 1978-2013」8/27～11/19
 特別展「仮面の芸能・人形の芸能」11/25～12/26
 企画展「涅槃図の世界」H27/2/9～4/3

・特別講座「場所の力—聖地・名所をめぐる伝承と芸能—」

期間 平成 26 年 10 月 22 日～11 月 19 日(毎週水曜日・全6回 ※見学会込み)

・刊行物

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』8号

平成 27 年度

・展示

「来迎の姿—練供養と来迎図—」5/11～6/26
 企画展「京の謡文化とその広がり—京観世岩井家を中心に—」7/6～8/7
 企画展「説経「おぐり」の世界—説経節の広がり—」10/13～12/11
 企画展「ワキ方福王流の謡と歴史—江崎家旧蔵資料を中心に—」2/15～3/31

・特別講座「説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—」

期間 平成 27 年 10 月 14 日～11 月 18 日(毎週水曜日・全6回)

・刊行物

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号

平成 28 年度

・展示

『食満南北著『大阪藝談』』刊行記念展示「食満南北」5/10～6/15
 企画展「繋がる資料—志水文庫蔵黄檗宗関連資料を中心に—」6/18～7/29
 「幕末・近代の狂言の絵師たち」9/13～10/21
 企画展「播磨の民俗芸能点描—民俗学者西谷勝也氏の写真より—」11/7～H29/1/20
 企画展「此岸から彼岸へ—志水文庫蔵仏教版画展—」H29/2/6～3/31

・特別講座「あの世への想像力—日本人の死生観—」

期間 平成 29 年 2 月 7 日～3 月 14 日(毎週火曜日・全6回 ※見学会込み)

・刊行物

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10号

神戸女子大学古典芸能研究センター編 2016 『神戸女子大学古典芸能研究センター企

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

画展「ワキ方福王流の謡と歴史—江崎家旧蔵資料を中心に—」展示目録(増補版)』、古典芸能研究センター、総頁 29

平成 29 年度

・展示

「謡のたのしみ—謡う・聴く・読む—」4/25～6/30

企画展「源氏物語の広がり～古典芸能の世界へ～」9/25～11/2

「近代神戸の能楽～大正・昭和初期を中心に～」11/20～2018/1/19

「志水文庫の大津絵と大原神社の絵馬「踊り子図」」H30/2/5～3/30

・特別講座「源氏物語と芸能」

期間 平成 29 年 9 月 25 日～10 月 30 日(毎週月曜日・全5回と 10 月 28 日 能楽鑑賞会)

・刊行物

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11 号

神戸女子大学古典芸能研究センター編 2017 『食満南北著『大阪藝談』』刊行記念展示

「食満南北」図録、古典芸能研究センター、総頁 16

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

デジタル化が目的ならばタイトルとの整合性が無い。また、デジタル化でどのような研究が可能になるのかを示すべき。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

予定どおりデジタル化の作業を進めているが、それを単にホームページ上で公開するにとどまらず、4で示したとおり、そのデータを活用した研究会や連続講座を開催した。それによって、本センターを拠点とした研究者のネットワーク作りが進めることができた。

<「中間評価時」に付された留意事項>

特になし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281017 |
| プロジェクト番号 | S1311048 |

17 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

| 年度・区分 | 支出額 | 内 訳 | | | | | | 備考 |
|--------|---------|--------|--------|----------|-------|-----|--------|----|
| | | 法人負担 | 私学助成 | 共同研究機関負担 | 受託研究等 | 寄付金 | その他() | |
| 平成25年度 | 施設 | 59,325 | 30,005 | 29,320 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 15,444 | 5,148 | 10,296 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 20,155 | 10,155 | 10,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 平成26年度 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 4,950 | 1,650 | 3,300 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 18,503 | 10,153 | 8,350 | 0 | 0 | 0 | |
| 平成27年度 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 4,950 | 1,650 | 3,300 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 17,009 | 8,659 | 8,350 | 0 | 0 | 0 | |
| 平成28年度 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 20,078 | 10,078 | 10,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 平成29年度 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 設備 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 研究費 | 20,018 | 10,018 | 10,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 総額 | 施設 | 59,325 | 30,005 | 29,320 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 設備 | 25,344 | 8,448 | 15,246 | 3,300 | 0 | 0 | 0 |
| | 研究費 | 95,763 | 49,063 | 46,700 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総計 | 180,432 | 87,516 | 91,266 | 3,300 | 0 | 0 | 0 | |

| | |
|------|--------|
| 法人番号 | 281017 |
|------|--------|

18 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）
《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

| 施設の名 称 | 整備年度 | 研究施設面積 | 研究室等数 | 使用者数 | 事業経費 | 補助金額 | 補助主体 |
|----------------------|--------|-------------------|-------|-------|--------|--------|------|
| 神戸女子大学 古典芸能研究センター | 平成25年度 | 710m ² | 9 | 不特定多数 | 59,325 | 29,320 | 私学助成 |

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積
(改修)537 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）（千円）

| 装置・設備の名称 | 整備年度 | 型 番 | 台 数 | 稼働時間数 | 事業経費 | 補助金額 | 補助主体 |
|--------------------|--------|-------------------|-----|-----------------------|-------|-------|------|
| (研究装置) 対象なし | | | | h h h h h | | | |
| (研究設備) 展示設備一式 | 平成25年度 | W2175×D650×H2500他 | 1 | 常時 | 8,998 | 5,999 | 私学助成 |
| 資料保管設備一式 | 平成25年度 | W944×D484×H2247他 | 1 | 常時 | 6,446 | 4,297 | 私学助成 |
| 奈良絵本謡本 八帖 | 平成26年度 | | 1 | 常時 | 4,950 | 3,300 | 私学助成 |
| けいせい七堂伽藍 一冊 | 平成27年度 | | 1 | 常時 | 4,950 | 3,300 | 私学助成 |
| (情報処理関係設備) 対象なし | | | | h h h h h | | | |

19 研究費の支出状況（千円）

| 年 度 | 平成 25 年度 | | |
|-----------------------------------|----------|-------------------|----------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | |
| 消耗品費 | 7,320 | 閲覧机・椅子、パソコン | 5,859 |
| 光熱水費 | 0 | | |
| 通信運搬費 | 220 | 紀要送料、チラシ送料 | 156 |
| 印刷製本費 | 868 | 紀要、チラシ | 747 |
| 旅費交通費 | 1,363 | ハワイ大学出張、伊是名 豊年祭調査 | 983 |
| 報酬・委託料 | 3,169 | 書籍移動、書架設置、燻蒸 | 3,017 |
| (修繕費、謝金、雑費、消耗図書費他) | 1,957 | 修理製本、講師謝礼 | 1,079 |
| 計 | 14,897 | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | |
| 人件費支出 | 256 | 臨時的任用職員(非常勤研究員) | 時給 1,500円, 年間時間数 144時間, 1名 |
| | 1,051 | 臨時的任用職員(事務補助) | 時給 950円, 年間時間数 987時間, 1名 |
| 教育研究経費支出 | 0 | | |
| 計 | 1,307 | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | |
| 教育研究用機器備品 | 1,702 | コピー機、ファイルサーバ | 1,702 |
| 図 書 | 2,249 | 資料 | 2,249 |
| 計 | 3,951 | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | |
| リサーチ・アシスタント | 0 | | |
| ポスト・ドクター | 0 | | |
| 研究支援推進経費 | 0 | | |
| 計 | 0 | | |

| 年 度 | 平成 26 年度 | | |
|-----------------------------------|----------|----------------------|----------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | |
| 消 耗 品 費 | 4,308 | パソコン、サインボード類 | 1,596 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | |
| 通 信 運 搬 費 | 459 | チラシ送料、能面運搬料 | 346 |
| 印 刷 製 本 費 | 1,330 | 紀要、チラシ | 1,128 |
| 旅 費 交 通 費 | 1,919 | 国際研究会開催関連旅費、石垣・西表島調査 | 1,560 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 2,646 | 資料撮影、国際研究会開催関連翻訳・通訳 | 1,867 |
| (修繕費、謝金、雑費、消耗図書費他) | 2,065 | 修理製本、講師謝礼 | 1,080 |
| 計 | 12,727 | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | |
| 人 件 費 支 出 | 1,351 | 臨時的任用職員(非常勤研究員) | 時給 1,500円, 年間時間数 840時間, 1名 |
| | 1,311 | 臨時的任用職員(事務補助) | 時給 950円, 年間時間数 1290時間, 2名 |
| 教育研究経費支出 | 0 | | |
| 計 | 2,662 | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | |
| 教育研究用機器備品 | 2,095 | 可搬方ステージ、輪転機他 | 2,095 |
| 図 書 | 1,019 | 資料 | 1,019 |
| 計 | 3,114 | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | |
| リサーチ・アシスタント | 0 | | |
| ポスト・ドクター | 0 | | |
| 研究支援推進経費 | 0 | | |
| 計 | 0 | | |

| 年 度 | 平成 27 年度 | | |
|-----------------------------------|----------|-------------------------|-----------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | |
| 消 耗 品 費 | 1,860 | 簡易鉄・中世紙保存用品、棚板・棚受 | 486 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | |
| 通 信 運 搬 費 | 301 | 紀要送料、チラシ送料 | 193 |
| 印 刷 製 本 費 | 1,123 | 紀要、チラシ | 193 |
| 旅 費 交 通 費 | 427 | 国会図書館他資料調査旅費、公開研究会講師宿泊費 | 250 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 2,979 | 資料撮影、資料購入仲介・手数料 | 2,436 |
| (修繕費、謝金、雑費、消耗図書費他) | 2,847 | 成果刊行物買取、修理製本 | 1,397 |
| 計 | 9,537 | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | |
| 人 件 費 支 出 | 5,093 | 臨時的任用職員(非常勤研究員) | 時給 1,500円, 年間時間数 2762時間, 3名 |
| | 1,038 | 臨時的任用職員(事務補助) | 時給 950円, 年間時間数 939時間, 1名 |
| 教育研究経費支出 | 0 | | |
| 計 | 6,131 | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | |
| 教育研究用機器備品 | 0 | | |
| 図 書 | 1,341 | 資料 | 1,341 |
| 計 | 1,341 | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | |
| リサーチ・アシスタント | 0 | | |
| ポスト・ドクター | 0 | | |
| 研究支援推進経費 | 0 | | |
| 計 | 0 | | |

| | |
|------|--------|
| 法人番号 | 281017 |
|------|--------|

| 年 度 | 平成 28 年度 | | | |
|---|----------|--------------------------|-------|-------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消 耗 品 費 | 3,936 | 書架用耐震バー、簡易帙・保存箱他 | 2,007 | 事務用品、資料保全用品、展示用品、閲覧用具等 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | | |
| 通 信 運 搬 費 | 436 | 成果物・チラシ送料、資料運搬料 | 368 | 成果物・チラシ類送料、文献収集用送料、資料運搬費等 |
| 印 刷 製 本 費 | 1,232 | 成果物、チラシ・ポスター | 1,135 | 封筒、成果物、チラシ・ポスター等印刷 |
| 旅 費 交 通 費 | 664 | 沖縄 粟国島他資料調査旅費、公開研究会講師宿泊費 | 451 | 調査研究・資料収集・成果公開等に伴う旅費交通費 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 2,660 | 資料撮影、デジタルアーカイブ構築等 | 2,058 | 資料撮影・複写・燻蒸、デジタルアーカイブ構築、機器点検等 |
| <small>(委託管理費、雑費、謝金、修繕費、消耗図書費他)</small> | 3,621 | 成果刊行物買取、講師謝礼 | 2,323 | 成果刊行物買取、資料修繕、講師謝礼、受信料、雑誌類他 |
| 計 | 12,549 | | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人件費支出 | 1,347 | 臨時的任用職員(非常勤研究員) | | 時給 1,500円, 年間時間数 866.25時間, 1名 |
| | 1,732 | 臨時的任用職員(事務補助) | | 時給 950円, 年間時間数 1635.75時間, 2名 |
| 教育研究経費支出 | 0 | | | |
| 計 | 3,079 | | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教育研究用機器備品 | 672 | 貴重書庫用スノコ収納棚 | 672 | 貴重書庫用スノコ収納棚 単式3連5段 |
| 図 書 | 3,778 | 資料 | 3,778 | 和書、洋装本 |
| 計 | 4,450 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント | 0 | | | |
| ポスト・ドクター | 0 | | | |
| 研究支援推進経費 | 0 | | | |
| 計 | 0 | | | |

| 年 度 | 平成 29 年度 | | | |
|---|----------|----------------------|-------|---------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消 耗 品 費 | 3,582 | 書架用耐震バー、簡易帙・保存箱他 | 2,683 | 事務用品、資料保全用品、展示用品、閲覧用具等 |
| 光 熱 水 費 | 0 | | | |
| 通 信 運 搬 費 | 490 | 成果物・チラシ送料、資料運搬料 | 443 | 成果物・チラシ類送料、文献収集用送料、資料運搬費等 |
| 印 刷 製 本 費 | 1,426 | 成果物、チラシ・ポスター | 1,260 | 封筒、成果物、チラシ・ポスター、展示物等印刷 |
| 旅 費 交 通 費 | 650 | 国文学研究資料館他資料調査、黒川能他調査 | 521 | 運営・調査研究・資料収集・成果公開等に伴う旅費交通費 |
| 報 酬 ・ 委 託 料 | 2,627 | 資料撮影、デジタルアーカイブ機能追加 | 2,287 | 資料撮影、デジタルアーカイブ機能追加、機器点検・整備、入場料等 |
| <small>(委託管理費、雑費、謝金、修繕費、消耗図書費他)</small> | 3,290 | 資料修繕、講師謝礼 | 2,100 | 成果刊行物買取、資料修繕、講師謝礼、受信料、雑誌類他 |
| 計 | 12,065 | | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人件費支出 | 1,387 | 臨時的任用職員(非常勤研究員) | | 時給 1,500円, 年間時間数 923時間, 1名 |
| | 1,608 | 臨時的任用職員(事務補助) | | 時給 950円, 年間時間数 1344.5時間, 2名 |
| 教育研究経費支出 | 0 | | | |
| 計 | 2,995 | | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教育研究用機器備品 | 2,304 | 木金棚、調湿キャビネット | 2,304 | 木金棚固定単式1連、調湿キャビネット |
| 図 書 | 2,654 | 資料 | 2,654 | 和書、洋装本 |
| 計 | 4,958 | | | |
| 研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント | 0 | | | |
| ポスト・ドクター | 0 | | | |
| 研究支援推進経費 | 0 | | | |
| 計 | 0 | | | |